

農林水産大臣賞（近畿ブロック最優良事例）

葛籠町自治会（滋賀県彦根市）



女性部による健康弁当の製造



史跡等を案内する「つづらマップ&ガイド」

（概 要）

（１）むらづくりの動機・背景

葛籠町自治会は、葛籠町及び西葛籠町の一部に住む住民により構成され、彦根市の東南部の犬上川左岸の扇状地に位置する田園地帯にあり、旧中山道沿線を中心に集落が形成されている。本地域は、犬上川の最末端にあるため、古くは常に干ばつの被害を受け、作物栽培に適する土質でありながら、米作りには大変な苦労があった地域であったが、かんがい排水事業による水源確保とほ場整備事業により、安定した農業経営が可能になり、このような歴史・風土が町民に一体感を醸成し、「集落の農地は集落で守る」という機運を生み出した。

また、葛籠町では集団転作に取り組んでいたものの、将来の農業やむらづくりに不安を感じていたことに加えて、ほ場整備が完了することや、長年苦労していた用水の安定的な確保の目途が立ったこともあり、将来の葛籠の農業の存り方について考えようとする機運が高まり、平成２年から集落営農ビジョン促進対策事業に取り組み、持続的な農業経営のため、水稲も含む集落一農場的な営農組織設立の合意形成を目指した。

（２）むらづくりの内容

平成３年以降、葛籠町農業組合を中心に集落営農ビジョンに基づいた農業経営に取り組んできたが、経営体質の強化を図るため、平成１８年に特定農業団体「葛籠町営農組合」を設立、平成２２年には営農組合を発展的に解消して「農事組合法人つづらファーム」を設立し、米・麦・大豆を中心とした水田農業経営を展開している。

また、つづらファーム発足当初から６次産業化について、その可能性の検討をすすめ、平成２６年に６次産業化の推進主体として女性部を組織化し、平成２７年に六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定を受け、黒大豆「クロダマル」を加工原料用とした商品開発に取組、平成２８年には加工施設「工房まめつづら」を建設し、黒豆を使用した健康弁当の注文販売のほか、黒豆コロッケ等をＪＡ直売所等に販売している。

葛籠町自治会では、旧中山道沿いの史跡等を紹介する案内看板や石碑を設置するとともに、「つづらマップ&ガイド」を作成し、観光客や散策への活用や、町内住民の歴史文化の醸成に寄与している。